第77回国体スポーツクライミング競技滋賀県強化選手選考会実施基準

滋賀県山岳連盟 2021/2/16

ボルダリング競技「競技全般はＩＦＳＣのルールおよび国体のルールに準拠して行う。」

１．アイソレーション

選手は競技会場に前日等のセット期間に入らないこと。

当日、決められた時刻に受付をして指定されたアイソレーションエリアで待機する。

受付は会場裏口で行い競技の終了後は表から帰り競技前の選手と接見しないこと。

２．オブザベーション

競技前オブザベーションは密をさせるため行わない。

競技進行についての説明はボルダ―担当の審判員によりおこなう。

ルートに関する説明はルートセッターによりおこなう。

オブザベーションは各ﾎﾞﾙﾀﾞｰに対して与えられた競技時間の中で行う。

３．競技のすすめ方（オンサイトベルトコンベア方式）

競技会場における密を避けるため予選ラウンドは行わず結果は滋賀県山岳連盟のＨＰでおこなう。

選手はアイソエリアから順にコールゾーンに移動し競技エリアに入る準備をする。

アイソエリアにおいて壁やマットでウオーミングアップできる。

競技エリアにおいては指定の位置に待機し順にアテンプトする。

各エリアでは一人ずつアテンプトし、それ以外の選手はアテンプトを見ないように競技壁を背にする。

選手は指定されたホールドからスタートし最終ホールドまで登る。

スタートホールド以外に主催者の用意したブラシ以外で触れるとアテンプトに数える。

途中に表示されたゾーンを保持すると、ゾーンポイントが得られる。

それを使用しないで最終ホールドに到達しても、ゾーンポイントは得られる。

スタートホールドはＳで、最終ホールド（ゴール)はG、ゾーンはＺで表示される。

競技はベルコン方式で、各エリアの１課題に対し５分あたえられる。４エリア用意される。

アテンプトを始める選手は審判の指示に従いトライする課題を確認する。

４．アテンプトの終了

アテンプトは、最終ホールドを両手で保持し、審判が「ＯＫ」と通告した時、完登とする。

アテンプトは、マット面に触れたとき、指定外のホールドを使用した時、終了となる。

完登した選手は、残り時間を次の待機席にて休憩することとする。

完登せずに終了した選手は、５分の競技時間内で同じ課題に挑戦できる。

５分の競技時間が終了した選手はアテンプトを終了して待機席に移動し５分休憩する。

次の選手は同様に競技を行い、休憩する選手は各自の成績を確認し集計担当に渡す。

４課題を終えた選手は、競技会場を出て待機エリアにて各自の成績を確認する。

最終成績はすべての競技終了後に滋賀県山岳連盟のホームページで発表する。

５．競技の順番の付け方

予選ラウンドは行わないのでベルトコンベアの出場順は学校単位など協議して決定する。

６．決勝ラウンドの定員（エントリー数の変動で見直す。以下は２０２２年の場合）

密をさけるため予選ラウンドを省略し決勝ラウンドを行う。

７．決勝ラウンドのすすめ方（オンサイト・ベルトコンベア方式）

選手は案内に従いアイソレーションゾーンに入り競技の準備をする。

競技の前のオブザベーションは密を避けるために行わない。

競技中に選手はオブザベーションできるがスタートホールド以外に触れてはいけない。
アイソレーションから選手は決められた競技順に移動しボルダ―でのアテンプトを行う。
アテンプトに失敗しても、ローテーション時間以内なら再びアテンプトができる。
それぞれのボルダ―を終えた後、選手は休憩時間が与えられる。
ローテーションピリオドの合図で選手は登るのを止め休憩エリアに入る。
休憩時間が終了した選手は次のボルダ―に移動する。(4 ボルダ―を用意)

8．テクニカル・インシデント

ボルダリング競技のテクニカル・インシデントとは以下のようなものである。
1）ホールドについて、脱落、回転等の異常が認められたとき
2）その他、選手の責めに帰さない事由によって競技に支障が生じたとき
予選では、テクニカル・インシデントがただちに修復できる場合は該当選手から競技を始める。
そのボルダーへのインシデント後、最初のアテンプトは前のアテンプトの継続と見なされる。
決勝では、インシデントの発生したボルダ―でのアテンプトは中断しなければならない。
・インシデントが当該の競技時間が終わるまでに修復された場合、当該選手はそのアテンプトを当該の競技時間で継続するか、全選手の競技終了後に継続するか選択することができる。当該の競技時間で継続を選択した場合、その時点で当該テクニカル・インシデントは完了し、以降はこれに関する一切の申し立てはできない。
・当該選手が全選手の競技終了後に継続することを選択した場合、主任審判員は、テクニカル・インシデントの当該選手が、そのアテンプトを継続するのに認められる競技時間を決定する。当該選手は、2 分間を最低として、テクニカル・インシデント発生時の残り時間を保証される。

9．決勝ラウンドの順位

決勝ラウンド後、選手は以下の基準で順位付けされる。
a）完登したボルダ―数。
b）獲得したゾーンの数。
c）完登までのアテンプト数の合計。
d）ゾーン獲得までのアテンプト数の合計。
同着がある場合、先行するラウンドにさかのぼって、カウントバックを適用する。

10. カウントバックを行った結果、なお同着の選手がいた場合

・決勝ラウンド後にそのような同着が、1 位、2 位、または 3 位の選手に生じた場合、これらの選手の順位は以下のように決定される。
a）これらの選手についてそのもっともよい成績をまず、決勝ラウンドでの最初のアテンプトでの完登数、次に 2 回目での完登数という風に順に比較する。
b）a)の比較で同着が分かれない場合、決勝ラウンドの最初のアテンプトでのゾーン獲得数、次に 2 回目でのゾーン獲得数という風に順に比較する。
c）1 位から 3 位に、a）、b）の比較後も同着が残る場合、先行するラウンドににについても適用する。
d） a）、b）そしてc）の適用後も同着が残る場合、それらの選手は同順位とする。
・それ以外の選手が同着となった場合は、その選手は同順位とする。

補足　今回の予選ラウンドを省略したベルトコンベア方式は社会情勢や会場の制約を考えて決めたことであり、来年度以降のルールはコンテスト方式の予選とコンベア方式の決勝を行うことが望ましい。今年度の参加者は大会の 2 週間以上前から体調管理や接触情報を記録し、体調の悪い人は出場を見合わせること。大会参加者は後日不調を起こすことがあれば主催者に必ず連絡を取ること。